8	６番　　安　部　　都　　議員 ①　ソーシャルインクルージョンの理念に基づいたまちづくりについて 　ソーシャルインクルージョンとは、「全ての人を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現に繋げるよう社会の構成員として包み支え合う」という理念であります。本町の次年度からの第１０次総合計画にも謳われています、誰も取り残されることのない社会の実現に向けて取組を行う SDGs に共通するものであります。そこで、コロナ禍の今だからこそ、高齢者、子育て世代の親子、障害児などの多様性を認め合い、遠慮なく安心して楽しみ過ごすことの出来る公園やバリアフリー公共施設のまちづくりが必要不可欠となります。そんな中、現在、障がい児を抱える一人の母親からの提案でインクルーシブ公園の環境整備が全国的に広がりつつあるのです。本町も先進事例の取組みを参考に、国の新たな補助金を活用し、町内の公園や新ラウンドマークとして遊び心のある「中尾城みっくんアドベンチャーパーク」と名付け、誰でもが楽しめるインクルーシブ中尾城公園に蘇らせる取り組みなどについて以下の質問を行います。 （１）ソーシャルインクルージョンの理念に基づいたまちづくりの本町の考え方を聞く。 （２）インクルーシブ公園の環境整備についての考えを聞く。 （３）インクルーシブ公園の先進事例を基に調査・研究を行い、現状の課題と実現に向けた取り組みについて聞く。 （４）国土交通省の「先導的官民連携支援事業」等活用し、中尾城公園の新ラウンドマークとして、誰でもが楽しめるインクルーシブ「中尾城みっくんアドベンチャーパーク」の実現についての見解を聞く。 （５）国土交通省が、今年３月、建築物のバリアフリー設計指針を４年ぶりに改定し４月より施行されます。障がい者ら向けの多目的トイレ（多機能トイレ）を本来必要とする人が使えるよう改定されます。本町においてバリアフリー公共施設（公園内も含）への取組について聞く。 ②ジェンダー平等社会実現について 　東京五輪・パラリンピック組織委員会、森会長の「女性蔑視発言」をめぐり、日本のみならず米メディアや各界の有名・著名人・国内全体にも批判の声が広がり、日本社会の汚点を浮き彫りにすることとなった。そして、その結果、謝罪し辞任を表明されましたが、オリパラ委員会トップの発言は、自らの偏見に基づく無意識の中にある女性への差別の慣習の中での招いた発言で、「女性が沢山入っている理事会は、時間がかかる」など不適切発言に対し、周りから笑いが起こったことなど私も看過することは到底できません。 　２１世紀の時代を迎え、男女平等参画社会を実現すべく推進している現在、女性の地位向上と共生社会の実現に逆行する発言であり、多くのボランティア聖火ランナーも辞退し始め、多くのアスリートのやる気と皆で応援し盛り上げようとの国民の心情や機運を逆なでするものでありました。この女性蔑視発言は、当事者が辞任したから終了ではなく又、個人だけの問題ではなく、身近な私たちの日本社会の不平等問題の露呈と捉え、世界から取り残されないジェンダー平等社会へと如何にして改革していくべきなのか、本町の見解をお聞きします。 （１）ジェンダー平等社会実現についての本町の課題と考えを聞く。 （２）町の管理職・審議会や委員会などの理事や役職などの女性起用についての考えを問う。 （３）庁舎内での男女共同参画推進体制の整備と充実についての目標を聞く。 （４）今夏、東京で五輪・パラリンピックが開催されることにあたって、多くの外国のお客様が来日されることと推測されます。そこで、コロナ禍の中、地域でのジェンダー平等のまちづくりと地域活性化に向けたおもてなしの取組について聞く。